

Yomity
 週刊
<http://www.yomity.net/>
就活応援団



大阪市の北区の本社で近藤誠撮影

日本トリム社長 森沢 紳勝さん 65

積極性で幸運つかめ

仕事と私

高校卒業後に代用教員として務めていた地元の高知県土佐清水市の中を辞めて、東海大学に進学した。奨学金をもらいながらアルバイトの毎日。東京近郊に新聞をトラックで輸送する仕事で、夜10時から朝5時まで働き、その後、狭い作業員宿舎で数時間、仮眠を取り授業に出た。他の人が3日働き1日休むところを、お金がないものだから休日は1か月に1日あるかないか。120人以上のアルバイトをまとめるチームもやった。すさまじい学生生活だったが、ここで培った気力、体力が、何をやってでも食べていける、という自信につながった。

卒業後、不動産会社に勤めたが、

日本トリム 1982年に森沢氏が創業した整水器メーカー。83年に厚生省(当時)認可の電解還元整水器の販売を始める。社員数は361人(関連会社も含む)。九州大や台湾大などの国内外の大学や研究機関と水についての研究を行い、家庭用のほか医療分野への応用に向けて取り組む。2004年、東証一部に上場した。

「将来、健康産業は伸びるだろう」と27歳の時に健康関連機器メーカーへ。常務にまでなったが、経営者としての意見が合わず37歳で独立した。当時、東南アジアなど日本より生活水準が低かった国で水が売られていることを知って驚いた。日本ではペットボトルもない時代だったが、必ず水を買う時代が来ると思った。

—— バカにされても
夢実現信じて ——

大阪・淀川区の小さな事務所です。社員と2人だけのスタートだった。1年目は本当に苦しかった。「水が売れるわけがない」とバカにされたが、軽自動車に整水器を積んで、近畿各地に飛び込み営業を行った。訪問先でののしられたこともあった。累積赤字が2000万円になり、自殺を考えたこともあった。でも「健康にいい水は必ずビジネスになる」といい

う確信と、「体調が良くなった」という利用者の声に支えられた。「夢は必ず実現する」という思いでこれまでやってきた。創業当時の夢である上場も実現した。自分が見ない夢は実現しないし、見た夢は必ず実現する。可能性がゼロなら駄目だが、たとえ1%でもあれば、かけるべきだ。

—— 我を忘れて没頭する
そんな人間は強い ——

そして、仕事は1年や2年、必死にならなくて没頭する時期がないとダメだと思ふ。ある期間に我を忘れて、仕事に打ち込んだ人は強い。大学生なら勉強でもスポーツでもいい。経営者として一番苦しいのが人を採用する時。その人の人生を預かるわけだから責任は重い。求めている人材は「積極性があるって明るい人」。人生は運が重要だと思ふ。幸運は積極性と明るさがあるところに、やってくると思ふ。そして幸運を持続させるのは誠実さだと思ふ。

(聞き手・佐藤浩)